

大谷大学フェア（東海）参加費無料



公開シンポジウム

テーマ 人が育つということ

-地域・未来・つながり-

2018年7月21日（土）

16：30～18：00



木越 康

きごし
木越

しどう
志藤

やすし
康

しゅうし
修史

大谷大学長

大谷大学社会学部長



志藤 修史

コーディネーター／平野 真

大谷大学同窓会飛騨支部副支部長

過疎化や高齢化が深刻になっている時代に、私たちはどのように向き合っていくのか、また、過疎の進む地域社会に寺院は何ができるのかをテーマに、大谷大学が現在取り組んでいる「くらしの再発見プロジェクト」や「新しい時代における寺院のあり方研究」を通して、地域住民と共に学ぶ学生の葛藤や成長の姿から、今後の地域社会で共に育つことの意味を皆さんと考えたいと思います。

同日開催!!

14:30～18:00

大谷大学進学相談会（申込み不要）

入試担当者が直接、高校生・社会人の皆さんの入試のギモンに応えます！

14:30～16:20

東海地区保護者懇談会（要申込み）

さまざまな個別相談に応じます。お茶・お菓子等をご用意しています。

19:00～20:30（予定）

同窓会・教育後援会合同懇親会（要申込み）

会場を移して懇親会を開催いたします。会場：未定※人数により決定いたします。会費：同窓生 3,000円 保護者 2,000円

定員 **120名**

会場 **岐阜商工会議所 2階大ホール**

岐阜市神田町2丁目2番地

（アクセス）岐阜バス「岐阜市役所南庁舎前」下車すぐ
※駐車場はございません。近隣の「イパ-パク」をご利用ください。

対象 一般・高校生・高校生の保護者・
大谷大学同窓生・大谷大学在学学生保護者

共催：大谷大学／大谷大学同窓会／大谷大学教育後援会 後援：岐阜新聞／岐阜放送

問合せ・お申込み 保護者懇談会、合同懇親会は要申込み

お電話またはメールで
お申込みください。

申込み締切り7月6日(金)※公開シンポジウムのみ場合は申込み不要

→**締切日延長！7月16日(月・祝)**までにお知らせください。

大谷大学校友センター（京都市北区小山上総町）

TEL 075-411-8124

E-mail kouyu@sec.otani.ac.jp

Be Real

講師略歴

きごし やすし
木越 康



1963年カリフォルニア生まれ 55歳
1990年3月 大谷大学大学院博士後期課程満期退学（真宗学）
財団法人私学研修福祉会国内研修修了（東京大学文学部宗教学科）
大谷大学短期大学部助手、大谷大学講師、准教授を経て、
2013年4月より大谷大学教授
大谷大学学生部長、教育・学生支援担当副学長を歴任し、
2016年4月より大谷大学長兼大谷大学短期大学部学長
【専門】真宗学

【著書】

『生者／死者論—傾聴・鎮魂・翻訳—』
「死んだら終わりですか？—慈悲のかわりめ—」（共著・ペリカン社・2018）
『後世物語聞書聴記』（東本願寺・2017）
『ボランティアは親鸞の教えに反するのか』（法蔵館・2016）
『信仰とは何か（一）「他力の信心—親鸞の仏弟子観—」』（日本仏教学会・2013）
『仏教とキリスト教の対話Ⅰ～Ⅲ』（共著・法蔵館・2000～2004）
『正像末和讃を読む』（大阪教区・2005）
『キリシタンが見た真宗』（共著・東本願寺・1998）

【論文】

「真宗教学の近代化と現在 —浄土理解の変遷を通して—」
（『親鸞教学』第82/83号所収）
「ポストモダンと真宗」（『大谷学報』第79巻第2号所収）
「真宗（もしくは真宗学）における実践学の可能性」（『親鸞教学』第79号所収）
「真宗における「内的平和と暴力の克服」—第五回ルードルフ・オットー
シンポジウムより—」（『親鸞教学』第88号所収）
「信心発起という出来事 —法然・隆寛との思想的交流を通して—」
（『親鸞聖人七百五十回御遠忌記念論集『教行信証』の思想』所収）
「親鸞と末法(上)」（『親鸞教学』99号所収）
「親鸞と末法(下)」（『親鸞教学』100号所収）

【著書・論文】

『地域福祉援助技術』（共著・社会福祉援助技術（建帛社））
『地域福祉の今を学ぶ』（共著・ミネルヴェア書房）
『いま、社会福祉・社会保障を問う』（共編・貧困問題研究会）
「京都市における聴覚障害児・者とその家族の生活問題実態調査報告」
（『総合社会福祉研究』第33号所収）
「要約筆記者（奉仕員）派遣事業におけるコーディネーターの課題と展望」
（『要約筆記問題研究』第20号所収）
「地域福祉研究における「地域」認識の課題」（『大谷学報』第88巻 第2号所収）
その他



しどう しゅうし
志藤 修史

1964年佐賀県生まれ 54歳
1991年3月 龍谷大学大学院修士課程修了（文学）
1991年社会福祉法人京都市社会福祉協議会就職（2005年3月まで）、
2005年大谷大学講師、准教授を経て、2013年4月より大谷大学教授
2018年4月より大谷大学社会学部長、地域連携室長
【専門】社会福祉学（地域福祉論・社会福祉援助技術論）

新しい大谷大学を象徴するメッセージ／「Be Real—寄りそう知性」

2018年4月より、大谷大学はこれまでの文学部に、新しく社会学部と教育学部を加えた「3学部体制」となりました。
それに伴い、大谷大学を象徴する新メッセージを作成しました。

「Be Real—寄りそう知性」です。

「Real」には二つの「実」の意味を含みます。一つは仏教という「真実」です。人間の思慮分別や価値判断が加わる前の世界、真理の姿を指し示す言葉。もう一つは目の前の「現実」です。社会問題や一人ひとりが経験する苦悩など、世の中に現れる具体的事象。そして「Be」は「足場をおく」、「成る」。

「Be Real」とは、真実を立脚地として、世の中の現実を生きていこうという態度を表す言葉であり、また、世の中の現実に向きあいながら真理を探究していこうという姿勢を表す言葉です。真実と現実とにしっかりと足場をおいて、本来あるべき人間の姿、あるべき社会を探究し、創造していこうというメッセージが「Be Real」です。

そして「寄りそう知性」とは、「Be Real」をより具体的に表現したサブフレーズです。仏教の理念に基づく本学において、どの学部・学科で学ぶことになるうとも、学ぶことで得られる知性は「他者に寄りそう」ことになるはずで、仏教の智慧は、必ず人間に慈悲を生み出す力となる。それが「寄りそう知性」です。

大谷大学長 木越 康